

令和3年度は、3地域に対し、以下の3名の地域活性化伝道師を派遣した。

※「所属」は令和4年3月31日現在のもの。

圏域	No.	派遣先・相談主体	伝道師名	所属・肩書
北海道圏	1	北海道中標津町	舘 逸志	公益資本主義推進協議会 理事
九州・ 沖縄圏	2	佐賀県みやき町	木田 悟	(一財)日本スポーツコミッション、 日本大学理工学部・千葉工業大学創造工学部 代表理事、講師
中部・ 北陸圏	3	三重県東員町	高木 超	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 /SDGs-SWY 特任助教/共同代表

※地域活性化伝道師の詳細なプロフィールは、当推進事務局のホームページをご参照ください。

地方創生推進事務局>施策>地域活性化伝道師

<https://www.chisou.go.jp/tiiki/ouentai.html>

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	町の未来予測プロジェクト	相談主体	北海道中標津町
派遣伝道師	館 逸志	ブロック名	北海道ブロック
相談内容	<p>中標津町では、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定中であり、人口減少・少子高齢化が進む中で、本町の特性である空港、酪農景観、商業集客力等を活かした交流人口・関係人口の拡大に結び付く事業展開を検討している。</p> <p>これに伴い、地域活性化伝道師をお招きし、その知見を活用させていただきたく、本町の今後の事業展開に結び付けることを目的とした講演会を開催するとともに、職員プロジェクトグループとの懇談を実施させていただくもの。</p>		
相談への対応内容	<p>日時: 令和3年8月4日(水)</p> <p>1. 町職員への講演 10:00~12:00 《概要》 本町職員を対象に「日本の将来ビジョンと地方創生」と題し、将来推計人口をベースとした国土づくりの視点から、「災害リスク対応」「ポストコロナ」「コンパクト+ネットワーク」の重要性、さらには館伝道師がこれまでかかわってこられた離島振興の事例紹介を交え、ご講演及び助言をいただいた。</p> <p>2. 町職員プロジェクトメンバーとの懇談・意見交換 13:00~15:20 《概要》 本年6月に発足した「20年後の中標津町のあるべき姿」を議論する職員プロジェクトメンバー8名と館伝道師及び内閣府地方創生推進事務局職員との懇談・意見交換を実施、各メンバーが抱えるまちづくりにおける課題の共有と今後の施策展開の方向性、内閣府の支援事業等についてご助言をいただいた。</p> <p>※併せて出前コンサルジュとして、内閣府より職員2名を派遣いただき、上記1. 2においてご助言をいただいた。</p>		
成果	<p>講演では、人口減少社会は不可避であることを前提とした長期的な視点に基づく地域づくりの必要性、新型コロナによる社会変革は地方にとってチャンスであることを改めて確認した。特に、全国的な女性の地方からの流出に対し、女性目線の施策の重要性は今後の本町の総合戦略にも重要な視点であると共有することができた。</p> <p>また、職員プロジェクトメンバーとの懇談では、各職員が抱えるまちづくりへの課題等に対し、館伝道師の経験に基づく全国的な事例等に基づき今後の方向性を協議することができた。また、各メンバーにとっても、他のセクションにおける課題を共有・理解することにより、施策に対する幅の広がりや俯瞰的な評価につながるものと期待される。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○長期的なビジョン・総合戦略の実現を担保する財政運営と職員人材の確保 ○横断的に施策を推進する機動的な組織体制の在り方 ○県域にも匹敵する面積を有する当管内における広域自治体連携の在り方 ○災害特に千島海溝沿いの大地震を想定した防災・減災対策 		
今後の方針	<p>館伝道師には今後も継続した指導助言をいただき、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(R3.10.1策定予定)における施策の推進と職員プロジェクトによる協議を進めてまいりたい。合わせて、町民活動団体等、町民を巻き込んだ対話の場の開催に向け準備を進めたい。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	女子サッカーのまち拠点づくり	相談主体	みやき町
派遣伝道師	木田 悟 (一般財団法人日本スポーツコミッション)	ブロック名	九州・佐賀県
相談内容	<p>1. みやき町内のスポーツ資源(グラウンド・体育館等)の視察</p> <p>2. 女子サッカー(スポーツ)を活用したまちづくりに取り組む関係者の意識の統一を図るための各種意見交換会の開催; それぞれの立場からのまちづくりに資するアドバイス等を受ける。</p> <p>① みやき町行政幹部(町長・副町長・教育長):行政責任者として女子サッカー拠点整備等によるまちづくりについてアドバイスを受ける。部長:行政幹部として町が今後進む方向へ一体となって協力していくための方策等についてアドバイスを受ける。</p> <p>② スポーツ関係者(民間組織を含む):スポーツに関わる者として、体育との違いやスポーツを活用したまちづくりとはどのようなことを意味するのかなどについてアドバイスを受ける。</p> <p>③ サッカー関係者:女子サッカーの拠点形成に向けてサッカー関係者が理解しなくてはいけない事項や今後の協力方法などについてアドバイスを受ける。</p> <p>④ 企画課・女子サッカー推進室関係者:女子サッカー拠点整備を進める現場として、女子サッカー拠点整備に向けた計画策定の必要性、あるいは他部局との連携による拠点整備による効果を活用したまちづくりへの取組などについてアドバイスを受ける。</p> <p>3. 女子サッカーの拠点形成・スポーツを活用したまちづくりに資する講演会の開催 様々な関係者からの意見やみやき町のスポーツ等の資源の現状や課題を踏まえた講演会の開催。 行政をはじめとした関係者が「スポーツを活用したまちづくり」について理解するとともに、女子サッカー拠点整備に向け、町をあげての推進に向けた考え方と捉え方などについての理解していくために開催。</p>		
相談への対応内容	<p>1. みやき町内のスポーツ資源(グラウンド・体育館等)の視察(110分) 町内スポーツ施設(グラウンド及び体育館)4カ所及び人工芝グラウンド造成予定地を視察</p> <p>2. 女子サッカー(スポーツ)を活用したまちづくりに取り組む関係者の意識の統一を図るための各種意見交換会</p> <p>1) 行政関係者全般 ①町長・副町長・教育長(50分) ②各課部課長(70分)</p> <p>2) 外部団体(民間組織を含む) 観光協会・ふるさと振興協会・まちおこし協力隊など(50分)</p> <p>3) スポーツ・サッカー関係者 スポーツ推進員・佐賀県サッカー協会・みやき町サッカー協会(50分)</p> <p>4) 企画課・女子サッカー推進室関係者(60分)</p> <p>3. 女子サッカーの拠点形成・スポーツを活用したまちづくりに資する講演会 一般参加者(地域住民及び町外スポーツ関係者含む)約50名(60分)</p>		
成果	<p>①スポーツを行うことを目的とするのではなく、地域資源として多様な効果や役割を有するスポーツを活用し、その効果を継続的に発現させ、地域の課題を解決し、まちづくりや活性化を図るとはどのようなことか。</p> <p>②スポーツを活用して地域の課題を解決していくための組織としてのスポーツコミッションとは何をどのようにしていく組織なのか。</p> <p>以上の2点を行政及び地域住民の方々へ伝達できたことは、初めの第一歩として大きな成果である。また、他地域の具体的な活動例を紹介していただいたことで、なおわかりやすく参加者が理解できた。官民連携の団体としているスポーツコミッションのあり方が行政職員を中心に理解を深められた。</p>		
課題	<p>まずは、スポーツコミッションの構成づくり・機能をいかにうまく働かせるか、そのための人員不足の解消、行政・民間とのつながりをいかに進めていくかが課題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り行政に横並びのつながりをつくるためにどう組織づくりをするか。 ・地域住民参加・行政支援策の企画づくりの困難さ ・施設・人・各組織(団体)との協力体制をいかにつくるか <p>そして、ソフト面だけでなくハードの面でも、女子サッカー拠点地域としての施設整備・確保も課題となる。</p> <p>また、女子サッカー拠点整備に向けた計画や推進組織としてのスポーツコミッションの今後の活動方向を示す計画などが必要ということが分った。</p>		
今後の方針	<p>○町長から女子サッカー拠点整備のための計画策定に向けた要員を他部署から派遣してもらえらることとなった。これにより、関係者で議論し、ある程度まとまった段階で木田氏のアドバイスを受けることとなった。</p> <p>○今後1ヶ月に1回、WEB会議を開催して以下の内容(指摘された事項の達成度合いのチェックを含む)についてアドバイス等を受ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の企画・体制構築 ・実行スタッフ・リーダーの育成に向けた ・SCの自立に向けた補助事業を含む事業等の実施 ・地域の新たな人流創出に向けたマーケティング等 <p>※会議にはみやきSC・女子サッカー推進室・企画課関係者が参加するものとし、内容によっては町長も参加。</p>		

地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	SDGsと東員町総合計画から見る持続可能なまちづくりとは	相談主体	三重県員弁郡東員町
派遣伝道師	高木 超	ブロック名	北陸・中部ブロック
相談内容	<p>本町は令和3年度から10年間の第6次東員町総合計画をコンサルに頼ることなく、一般公募で参加された23名の町民の方、16名の役場職員と政策課員が「とういん未来会議」という会議の場を設けて、冊子のデザインから内容までイチから作り上げた東員町独自の総合計画となっている。</p> <p>しかし、町単独の総合計画の策定は非常に困難だったこと、SDGsの観点を加えたものにしたい。という考えから、地域活性化伝道師の著書を参考に「とういん未来会議」を進めた。このことから、地域活性化伝道師にはSDGsや東員町総合計画の考え方であるバックキャストリングの考え方を取り入れた、10年先のあるべき姿を想像し、持続可能な各種団体の活動となる新しいまちづくりとするために、これから何をすべきか自発的に実施するための考え方やきっかけなどの講演をお願いした。</p>		
相談への対応内容	<p>○令和4年3月19日(土)「令和3年度 まちづくりセミナー」開催</p> <p>◇講師(地域活性化伝道師) 高木 超 氏</p> <p>◇参加者数 54名(とういん未来会議委員、自治会関係者、町民、町議会議員、商工会関係者など)</p> <p>◇内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水谷俊郎町長による東員町総合計画への思い ・地域活性化伝道師 高木 超 氏によるSDGsと東員町総合計画 ・質疑、今後に向けての意見交換 		
成果	<p>・参加者に対しアンケートを実施したところ、地域活性化伝道師の講演に対して「大変満足」、「満足」との意見が大半で、自由記載の中には「SDGsは何のために必要かを認識することが重要」、「SDGsと総合計画とのつながりが体系的に理解できた」、「大人から子どもまでみんなで取り組めば達成できる」、「視野を広げることの大切さへつながった」、「17のターゲットへの分類の仕方をこれから学びたい。まだまだ理解が不足していることを実感した」などの意見も聞かれ、参加者の関心を大きく引き、今後の活動に良い影響をもたらすセミナーだったことが分かる。</p>		
課題	<p>・SDGsや総合計画を考えるうえで、マルチステークホルダーでの取り組みが必要だが参加者が60代、70代の方が多いため、若年層の方にも関心をもってもらえるような周知方法や実施方法も取り組んでいくことが課題である。</p>		
今後の方針	<p>・今回の事業だけにとどまらず、アンケートの意見なども参考にし、次回のセミナーにつなげる。特に今回は講演会形式での実施だったが、参加者同士の意見交換を重視しブレインストーミングの手法を取り入れた方法で開催したい。</p>		